

ながのけん 埋蔵文化財センター速報

平成13年7月9日 発行

発掘調査 真っ盛り

暑い・熱い…長雨と酷暑が交互にやってくる今年の梅雨。そんななか、県内各地では発掘調査が実施されています。

長野県埋蔵文化財センターの調査も、4月から県内各所で始まりました。今も北は信濃町から南は飯田市まで、5つの遺跡で調査が行なわれています。



現在 調査・整理の行なわれている遺跡

各地のようす 信濃町の仲町遺跡では、国道18号線の野尻バイパスの建設工事に伴う調査が行なわれています。連日、80名を超える作業員さんが調査に従事しています。

後期旧石器時代に始まり、縄文時代、古墳時代、古代、中近世の多くの遺物が出土しています。土器や石器のほかに木器も出土しました。

箕輪町の箕輪遺跡は、4・5月に部分的な調査を終えました。本格的な調査は出水の影響を考えて、稲刈りの終わる9月以降になる予定です。

飯田市山本地区では、国道474号線建設に伴う、遺跡の確認調査が行なわれています。

5遺跡で確認調査が進み、現在、竹佐中原遺跡を調査しています。

これまでに山本大塚遺跡では縄文時代の陥し穴が見つかりました。この確認調査の結果をみて、本格調査に入ります。

これ以外の遺跡の状況は、次ページ以降にあります。

| 遺跡名 | 所在地 | 主な時代 | 状況 |
|----------------------|------------|----------------|----------------|
| 1. 仲町遺跡 | 信濃町野尻 | 旧石器～中近世 | 本調査 |
| 2. 八幡遺跡群 | 更埴市八幡 | 古墳～平安時代 | 本調査 |
| 3. 山の神遺跡ほか | 大町市常盤 | 縄文時代早期 | 報告書作成 |
| 4. 聖石遺跡 長峯遺跡 | 茅野市北山 " | 縄文時代中期 " | 報告書作成 報告書作成 |
| 5. 馬捨場遺跡 | 茅野市泉野 | 旧石器～縄文時代 | 報告書作成 |
| 6. 箕輪遺跡 | 箕輪町三日町 | 弥生中期～中近世 | 秋に再開 |
| 7. 丸山遺跡 | 飯島町本郷 | 縄文時代中期 | 本調査 |
| 8. 山本大塚遺跡 ほか 10遺跡 | 飯田市山本 | 旧石器、縄文時代 ほか | 確認調査 |
| 9. 川路大明神原 遺跡 | 飯田市川路 | 縄文時代中期 | 本調査 |

遺跡 ニュース

コの字形に囲む古代の溝跡か

更埴市 八幡遺跡群
社宮司遺跡より

「穴を掘ると、そこからね、水が湧いてくるんだよ。」目下、調査担当者は“この水”と格闘しています。

更埴市武水別神社から西へ600mほど行くと、水田の中を工事予定地が南北に伸びています。この国道18号坂城・更埴バイパス工事に先立ち、八幡遺跡群（やわたいせきぐん）の社宮司（しゃぐうじ）遺跡の調査は行なわれています。

冠着山（姨捨山）や三峰山といった山々の麓にひろがる扇状地の上にあるため、調査をすれ

ばするほど、隣の田畑の地面より低くなって、水が湧いてきてしまいます。

そこへきて最近の雨続き。ポンプをフル稼働させて、なんとか調査をしている様子です。

そんな調査状況ではありますが、ここへきてさまざまな遺構や遺物が見つかってきました。

特に注目されるのが、3つの大きな溝の跡です。いずれも幅が2m以上あり現在は湿地化しています。その位置は東西に並ぶ2本を、南北に伸びる1本が調査区東端で結ぶ、「コの字」のようなかたちをしています。溝と溝の間は南北方向で約4.5mほどあります。

その溝からは、土器などのほか、木器や並べたような礫群が出土しています。

出水の影響をもろに受けてしまう溝跡の調査ですが、「ドロヌマ」に負けず、慎重な調査が続いています。

まだまだ調査途中のため、はっきりしたことは分かりませんが、いまのところ、出土する土器の年代から、平安時代ごろの溝跡と考えられています。

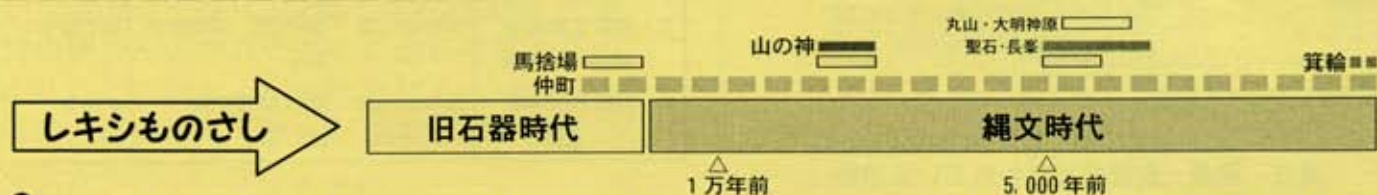
これから集落の本体の調査が進むと、この溝の性格や、集落との関係がより明らかになってくるでしょう。ますます目が離せません。



社宮司遺跡で見つかった溝の跡(手前)



雨の中、木器を洗浄する皆さん



ついに気温37度…

飯田市

川路大明神原遺跡より

“天竜舟くんだり”で有名な天竜峡に程近い飯田市南部の川路地籍に「川路大明神原(かわじだいみょうじんばら)遺跡」があります。

伊那谷を南下する天竜川。その大きな力によって形成された河岸段丘上には縄文時代中期(約4,500年前)の人々がムラを作っていました。

遺跡の中央には南北方向の谷があり、その東西で地形が異なっています。東側は台地状の高まりとなっていて、そのもっとも谷に近い西縁部から、30数軒の住居跡と多くの土坑(あな)が集中して見つかっています。

西側は川路丘陵が形成した扇状地で、そこからも時期は不明ですが、住居跡が数軒見つかっています(昨年度の成果も含む)。

7月4日の気温は摂氏37度。谷には孟宗竹の林が広がるものの、調査はまさに炎天下。

現在遺構の調査が本格化しています。暑さ対策をして、盛夏を迎えます。

ロームの下に、またローム

飯島町

丸山遺跡より

JR飯田線の「いなほんごう」駅のすぐ南にあるこんもりとした雑木林に、「丸山(まるやま)遺跡」があります。

東には中央アルプスの峰々が連なり、西下方には天竜川が流れています。このあたりは中央アルプスから天竜川に急勾配で流れ込む与田切

川などによって形成された東西の深い谷地形である「田切り地形」が発達していて、丸山遺跡もその田切り地形の台地上に立地しています。

今回の調査は、県単農道の本郷地区の工事に先立って行なわれています。

通常、台地上の調査では黒っぽい表土を剥いで、その下にある火山灰が土壌化した黄色っぽい土「ローム(数万年以上前に自然堆積した土)」の上面で遺構を見つけます。

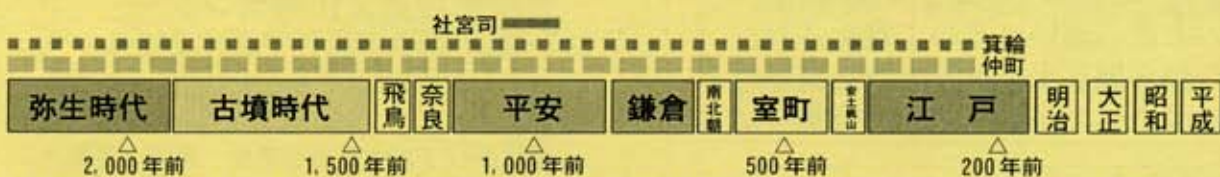
しかし、この丸山遺跡では、通常の「ローム」上面では遺構が見つかりませんでした。そこでさらに深く溝状に掘り込んでみると、なんとその「ローム」と思われた土の中から縄文時代中期の遺物がたくさん出土したのです。そしてその下から住居跡、そして本当の「ローム」も見つかりました。

多くの遺物を含んでいるこの「ロームまがい」の土は、どのような状況で、遺跡を覆っているのでしょうか。自然現象か、はたまた人為的な堆積か…。結論は出ていません。

現在は、本来の「ローム」上面で遺構の調査が進んでいます。縄文時代中期(約4,500~4,000年前)の住居跡が8軒と、深さが1mを超えるような大きな土坑(あな)などが見つかっています。



雑木の切り株を抜くのが一苦勞です。



整理メモ

遺跡での調査が終わると、室内で報告書作成のための「整理作業」が始まります。

現在、長野市にある篠ノ井整理棟、更埴市屋代の県立歴史館内のセンター整理室では、調査で得られた情報や出土資料をまとめる仕事を進めています。

大町市にある、「山の神（やまのかみ）遺跡」は、縄文時代早期の集落遺跡です。特殊な石組



石器の計測（山の神）



石器の実測（馬捨場）



石器の注記（長峯）



土器の復元（馬捨場）

遺構や通称「トロトロ石器」などの多数の石器資料、「押型文」といわれる文様のついた土器の基礎整理を行なっています。

茅野市の「馬捨場（うますてば）遺跡」は旧石器時代・縄文時代早期・中期の複合遺跡で、今年5月で調査を終了し、今年度報告書刊行にむけて、急ピッチで作業を進めています。

同じ茅野市の「聖石（ひじりいし）遺跡・長峯（ながみね）遺跡」は、どちらも縄文時代中期から後期（約5,000～3,500年前）の大規模な集落遺跡です。350軒余の住居跡などから得られた膨大な調査情報と土器や石器に囲まれて、縄文の世界にどっぷりとつかっています。

丸山遺跡見学会のお知らせ

今回紹介した飯島町丸山遺跡で、現地見学会が開催されます。縄文時代の住居跡や、土器、土偶などの資料が、身近にご覧いただけます。

待ってます。土偶より

特に、遺物では打製石斧や石錘（漁業に使う石のおもり）の出土が目立つのが特徴的です。

ぜひお越しください。



行ってみよう!

1. 日時 平成13年7月14日(土)
10:30～14:00(雨天決行)
2. 場所 飯島町本郷 丸山遺跡現地
(JR飯田線いなほんごう駅より徒歩8分)
3. 説明 10:30 / 14:00の2回実施。
4. 駐車場 現地にあり。
5. 問い合わせ先：
長野県埋蔵文化財センター 026-274-3891
丸山遺跡現場事務所 090-2565-0402

野 帳 第1号がすっかり夏号になってしまいました。直線で150km。信濃町から飯田市の遺跡を結ぶ距離です。ほんの一足向こうには、新潟県、あるいは静岡県があるという場所ですから、訪ねてみるとまず、作業員の皆さんの方言の違いに改めて驚かされました。これから掘り出される地域色豊かな考古資料の出土がたのしみです。(R)

長野県埋蔵文化財センター速報

平成13年第1号

平成13年7月9日

(財)長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

〒387-0007 更埴市屋代字清水 260-6

Tel 026-274-3891

Fax 026-274-3892